

# 「みえの防災大賞」、「みえの防災奨励賞」選考理由

## 「みえの防災大賞」

### 賀田自主防災会ひまわりの会（尾鷲市）

---

「賀田自主防災会ひまわりの会」は、構成会員の大半が高齢者等の要援護者である中、「自分たちの命は自分たちで守る、一人の犠牲者も出さない。」ことを基本理念に、平成24年2月から活動しています。

賀田奥地区は、賀田地区中心部から離れており、地域全体が津波浸水区域であるものの、周囲に適切な避難所等がなかったため、地域住民自らの手で高台へ避難所を整備しました。

また、日頃から住民同士の関係性を重視し、整備した避難場所をサロンがわりに、一日一回近隣住民で集まり話し合いをし、逃げ遅れないための体力づくりに向けたラジオ体操の実施や、避難所の維持管理にも努める等、参加しやすい組織づくりを構築しています。

避難所には、ソーラーパネル、簡易トイレ、炊き出し用のコンロを設置し、飲料水や備蓄食についてもすべて自らが確保し、大規模災害時に備えています。

さらに、世帯台帳、安否確認票を作成し、リアカー等を利用した災害時要援護者避難訓練、安否確認訓練、炊き出し訓練等を実施しています。

地域防災の活性化に貢献しており、高齢化が進む他団体や他地域への見本となり、広がりが大いに期待されることから、「みえの防災大賞」の受賞団体とします。

## 「みえの防災奨励賞」（50音順で掲載）

### 社会福祉法人杏南会特別養護老人ホームたちばな園（熊野市）

---

「社会福祉法人杏南会特別養護老人ホームたちばな園」は、東日本大震災など過去の大災害時における福祉避難所の設置・運営に関する課題を踏まえ、たちばな園での福祉避難所の設置・運営を円滑に行うことを目的に活動しています。

内閣府が示したガイドラインで設定された人員配置や必要面積等の基準を、交代要員や介護スペース等を勘案し、検証のうえ独自に改善し、三重県で初めて福祉避難所運営マニュアルを作成しました。

また、マニュアル作成のみにとどまらず、同マニュアルに基づき避難所運営訓練を繰り返す行うことで、新たな課題を発見し、すぐに改善を図るなど継続した取組を進めており、三重県内の福祉避難所運営マニュアルのスタンダードになることをめざしています。

これら取組が、他の福祉避難所の取組への広がることも期待されます。

### 中央ゆめづくり協議会防災防犯部会（名張市）

---

「中央ゆめづくり協議会防災防犯部会」は、自分たちの街は自分たちで守ることを目的に地域住民全体が参加・協力して訓練やイベントを実施しています。

当地域は新しい住宅が多く、災害時、在宅避難が多いことが想定されるため、1週間分の備蓄とローリングストック法を推奨しており、自宅の備蓄品だけで何食分の料理を作ることができるか、何日過ごせるかを考えるためのゲーム「サバイバルクッキングゲーム」を考案し、実践的に取り組んでいます。さらには、備蓄食材で男性でも簡単に作れるアレンジレシピ「缶乾レシピ」を提案しています。

また、100円で揃えることができる防災グッズについて提案する等、住民視点の活動を行っています。

こうした防災が身近なものに感じられる取組は、地域の防災意識の向上につながっており、今後の活動の広がりも大いに期待されます。

### 浜郷地区まちづくり協議会（伊勢市）

---

「浜郷地区まちづくり協議会」は、「みんなでつくろう 安心・安全のまち」をテーマに地域づくり・まちづくりを行っているなかで、「自分たちで助け合い 災害から身を守る」として防災を重点目標に平成24年から取り組んでいます。

防災活動として、平成25年度に防災3ヶ年計画を定め、①命を最優先にした緊急避難体制

の確立 ②守った命を危険にさらさない避難所運営体制の確立 ③一日でも早い復興に向けた避難所運営 を活動目標としており、計画的に取り組みました。

平成28年度から新防災3ヶ年計画を定め、①地区防災組織づくり ②地区で使用する避難所の確立 ③防災資機材の拡充及び非常用物資の備蓄 ④要配慮者への対応 を活動目標に取り組むこととしています。

また、小学生向けの避難所運営ゲーム（HUG）「浜郷ハグハグ」を作成し、小学生の防災力向上のための取組も行っています。

これらの計画的な取組や、小学生も巻き込んだ取組は、地域の防災意識の向上にも貢献しており、他団体や他地域への広がりも期待されるところです。

### 三重外湾漁業協同組合（南伊勢町）

---

「三重外湾漁業協同組合」は、漁業者の避難の指針となる対策が必要として、海から目線の防災対策と銘打ってを平成24年8月から取組をおこなっています。

海上の漁船への情報伝達手段の検証を行うとともに、操業場所からの津波避難について沖合避難か陸上避難かを意思決定するため、最寄りの港や水深100mまでの所要時間、緊急避難着岸場所も記載した「海上津波避難マップ」を作成し、全漁業者に配布するなど、漁業者の意識向上を図っています。

また、奈屋浦漁港の業務継続計画（BCP）を作成したり、南伊勢高校と連携し、いつも持ち歩く鞆に入れて携帯できる「Myゼロパック」を考案・開発し、普及啓発に取り組んでいます。

これらの取組については、全国的にも先進的なものであり、すでに様々なところで取組が紹介され、地域の防災意識の向上にも貢献しており、他漁港への広がりも期待されるところです。

### 度会郡大紀町立錦小学校（大紀町）

---

「度会郡大紀町立錦小学校」は、総合的な学習の時間を防災学習にあて、年7回の避難訓練を授業中や休み時間、下校中など様々な時間帯で実施するとともに、東日本大震災の教訓から、

子どもたち自身が津波想定にとらわれず、より高いところがある高台への避難を意識した避難行動をとるようになっていきます。

今年、実際に緊急地震速報が放送された際には、全児童・全職員が5分以内の高台避難を実現しています。

また、避難所までの時間がわかる避難経路紹介ビデオの作成や、錦内のどこにいても近い避難所や所要時間がわかる防災マップを作成し、地域住民だけでなく被災地の子どもたちやエクアドル防災視察団に紹介する等、その取組は学校内に留まらず、地域内外の防災意識の向上や安全安心にもつながっており、他の学校の模範となるものです。